



# 環境報告書 2013



平岡織染株式会社

## 目次

1. ごあいさつ	3
2. 会社概要	4
3. 編集方針	4
4. 環境基本方針	5
5. 環境中期計画	6
6. 環境保全活動の経過	7
7. 環境負荷の全体像	8

【事業活動における環境負荷】 \* 2012年度実績

8. 環境負荷低減への取組	9
---------------	---

【PRTR 対象物質への取組】

【大気汚染防止への取組】

【水質汚濁防止への取組】

【二酸化炭素排出量削減への取組】

【産業廃棄物削減への取組】

【PFOA に関する取組】

9. 環境保全をベースに生まれた新製品	13
---------------------	----

【ノンスメッシュ® 03、ノンスメッシュ® 32】

# 1. ごあいさつ

---

平素は格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。

2012年12月に誕生した安倍晋三内閣の経済政策アベノミクスは、【財政出動】【金融緩和】【成長戦略】の3本の矢で長期デフレを脱却し、名目経済成長率3%をめざすもので、経済界は新たな転換期を迎えようとしています。

特に総額20兆円に及ぶ【財政出動】は、東日本大震災から3年目を迎えた日本にとって、復興促進・防災体制強化の軸となり、その進展に拍車がかかる事になると期待しております。一方で福島原子力発電所の廃炉問題、放射性廃棄物の除染作業は、遅々として進まず、まだまだ長期にわたり予断を許さない厳しい環境が続くようです。

【成長戦略】には省エネルギー・再生可能エネルギー投資の促進が謳われております。エネルギー多消費型事業に分類される当社にとっては、環境物質の低減、地球温暖化対策とともに21世紀に生き残っていくため、とても重要な政策だと受け止めております。

【成長戦略】のもうひとつの柱である研究開発・イノベーション創出は、私共にとっても重要な柱であり、また普遍的なテーマでもあります。日々チャレンジし続けていくことが大切だと思っております。

2012年は創業110周年にあたり、全国主要6都市で新商品技術内覧会を開催し350社630名のお客様にご来場いただき、次世代の新商品開発のあしがかりにすることができました。2013年もこの勢いを継続し、新技術を活かした商品を提案していく所存です。

中核の生産設備は省エネ・省人化した新設備の導入、規制に則した公害設備の増強、老朽化設備・事業の見直し、クリーン工場投資計画と環境重視型投資がつづきます。

2012年3月に認証取得しましたISO9001をベースに、安全・環境・防災を柱に地球（地上・地中・海・空・川）の全域に膜材料を提供する使命に邁進してまいります。

今回は、弊社の環境対策に対する取組と成果について報告させていただきますので、ご一読いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、弊社が上市しております新製品もご紹介しておりますので、是非皆様のビジネスにお役立て下さいますようお願い致します。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2013年 9月

代表取締役社長 平岡 義章

## 2. 会社概要

---

名 称	平岡織染株式会社
社 長	平岡義章
資 本 金	48,438千円
売 上 高	8,647,402千円(2013年/3月期)
創 業	明治35年8月(1902年)
会 社 設 立	昭和10年2月
本 社	東京
支 店	大阪
事 業 所	草加事業所(埼玉県)、滋賀ターポリン工場*(滋賀県)

\*ターポリンは以下(タ)に省略して記載する。

## 3. 編集方針

---

【報告書の対象期間】

対象期間 2012年4月1日～2013年3月31日

【報告書の対象範囲】

本社、支店、2事業所(草加事業所、滋賀(タ)工場)

## 4. 環境基本方針

---

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する法規制及び、地方自治体との協定を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。特に、工場排気、排水、土壌の汚染に留意し、質の維持管理・向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 全社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。

## 5. 環境中期計画

---

弊社では、環境に配慮した企業経営を充実させるため、2007年6月に第二次の中期計画を策定。2006年度の実績データを基準として、達成目標年度は、2012年度と定め、次の三つの改善目標を掲げ、取り組みました。その結果、二酸化炭素総排出量で目標達成しましたが、産業廃棄物原単位処分量とコピー用紙使用量では目標を達成することが出来ませんでした。

### 【達成目標年度：2012年】

二酸化炭素排出量	:	3%削減	⇒	3.1%削減(目標達成)
産業廃棄物原単位処分量	:	5%削減	⇒	1.8%削減(目標未達成)
コピー用紙使用量	:	10%削減	⇒	7.6%増加(目標未達成)

第三次の中期計画については、第二次中期計画の達成状況と、近年の弊社における生産環境を勘案し、2012年度の実績データを基準として、達成年度を2017年度と定め、次の二つの改善目標を掲げ、取り組んで参ります。

### 【達成目標年度：2017年】

二酸化炭素原単位排出量	:	3%削減
産業廃棄物原単位処分量	:	3%削減

また、草加事業所では2011年度から埼玉県地球温暖化対策推進第一次計画がスタートし、基準排出量に対して2014年度までに6%以上の削減に取り組んでおります。

## 6. 環境保全活動の経過

弊社では、古くから綿をはじめとした天然繊維への染色加工や、合成繊維への樹脂加工を手掛けてきましたので、大気汚染防止法や水質汚濁防止法といった公害規制にも企業活動の一環として、前向きに対応して参りました。

2001年度には、生産本部環境方針を定め、環境マニュアルを発行。2002年度には、滋賀(タ)工場が「大気環境負荷低減計画実施事業場」として、滋賀県から公表。同年度に、草加事業所も「彩の国エコアップ宣言」(環境負荷低減計画作成)対象事業所として、埼玉県から公表されたことにもない、環境負荷の低減目標と、具体的な取組内容を公に示しました。

これにより、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動への第一歩を踏み出すこととなりました。

### 【環境保全活動の歩み】

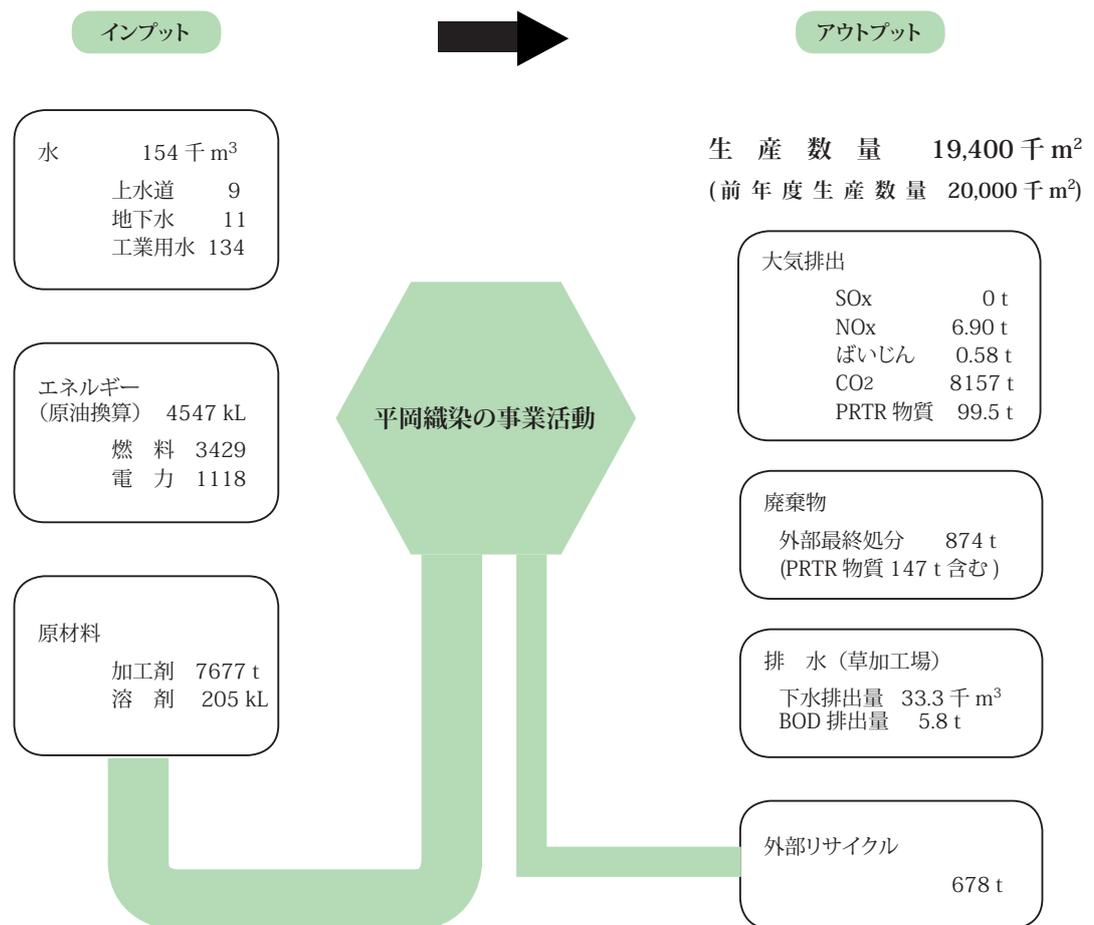
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション(550kW)を導入設置、稼働開始
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置(150m <sup>3</sup> /分)を導入設置、稼働開始 ※ VOC 大気放出量の大幅削減に貢献
2008.11	滋賀(タ)工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、同工場の重油使用を全廃
2009.03	滋賀(タ)工場にCO <sub>2</sub> 排出量の削減のため、新熱処理機を設置
2009.04	全社一丸となった環境への取組を強化するため、「環境連絡会議」を設置
2009.10	内部環境監査(環境マネジメントシステム)の運用開始
2010.12	草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、全社の重油使用を全廃
2011.03	滋賀(タ)工場、新熱処理機の本格稼働開始
2012.05	滋賀(タ)工場、湿式電気集塵機(排煙処理装置)追加設置・稼働開始

## 7. 環境負荷の全体像

### 【事業活動における環境負荷】＊2012年度実績

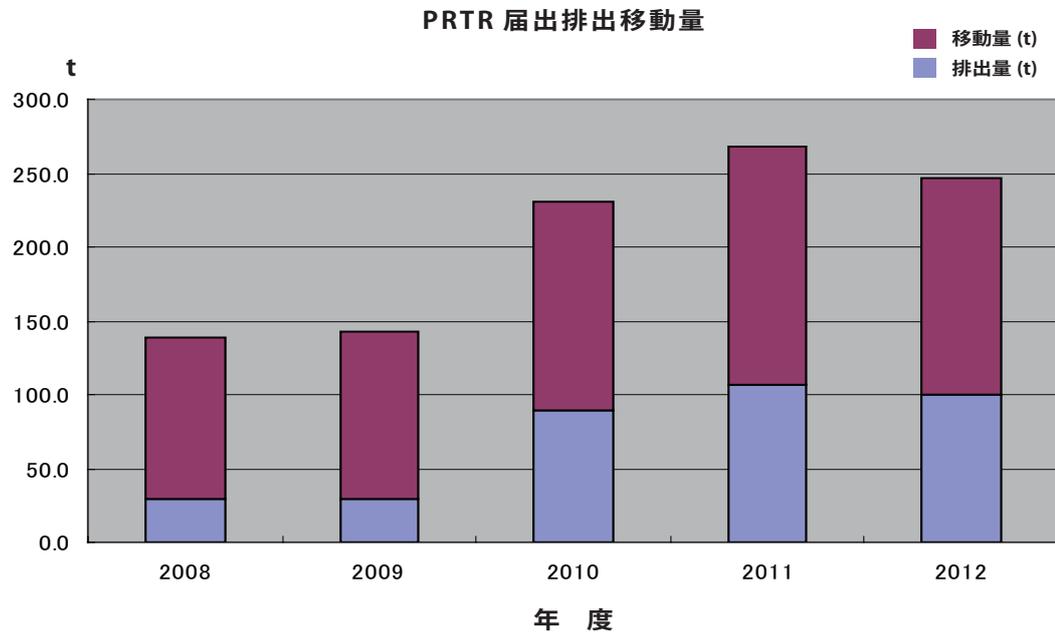
弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2012年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



## 8. 環境負荷低減への取組

### 【PRTR 対象物質への取組】



2012年度は一部PRTR対象物質の代替が進み、移動量が前年比約10%減となりました。

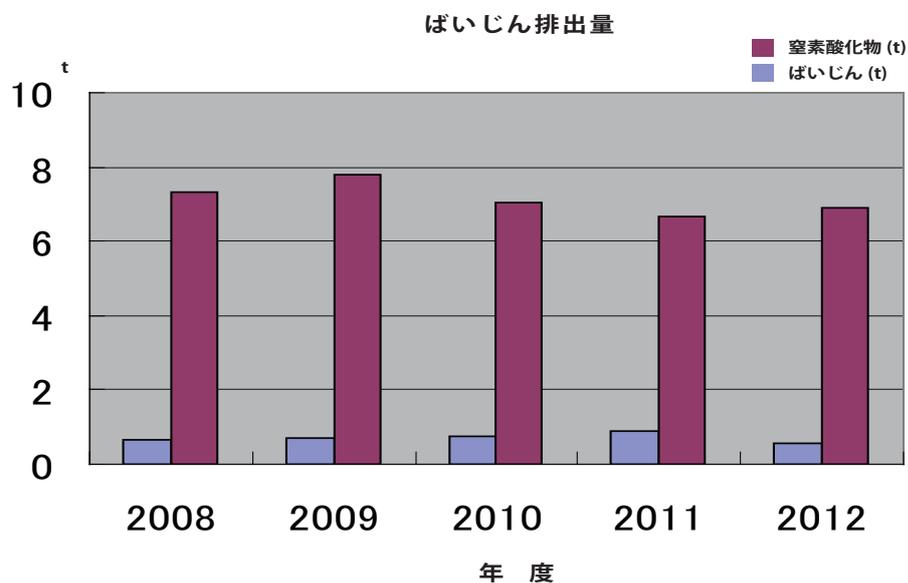
### 【大気汚染防止への取組】

SO<sub>x</sub> (硫黄酸化物) 排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化 (A重油全廃) により、2011年1月からゼロとなっています。

ばいじん排出量も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。

NO<sub>x</sub> (窒素酸化物) の排出量は、燃料転換による削減効果が得られないため、ほぼ横ばいで推移しています。

今後も、燃料使用量の節減 (省エネ) によるNO<sub>x</sub> 排出量の削減を継続して参ります。

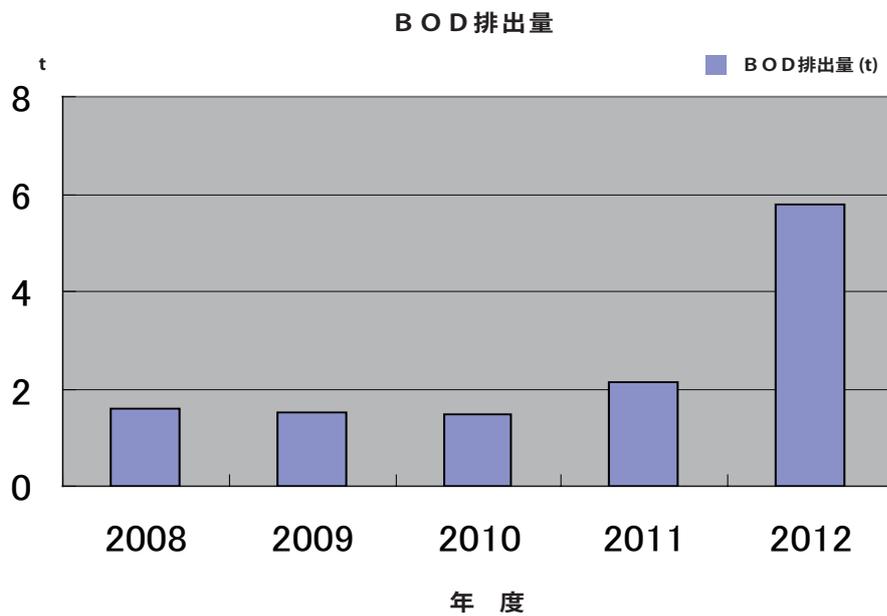


## 【水質汚濁防止への取組】

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加工場のみです。工場排水を行っていない滋賀(タ)工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加工場のみ水質汚濁防止への取組みを行っております。

排水が発生するのは主に染色工程で、長年にわたり、加圧凝集浮上方式による施設で処理し、公共下水道へ放流しています。

2012年度は、BOD排出量が染色加工増加の影響で急激に増えていますが、草加市下水道条例で定める下水排除基準に対しては常に適合しており、安定した水質を維持しています。

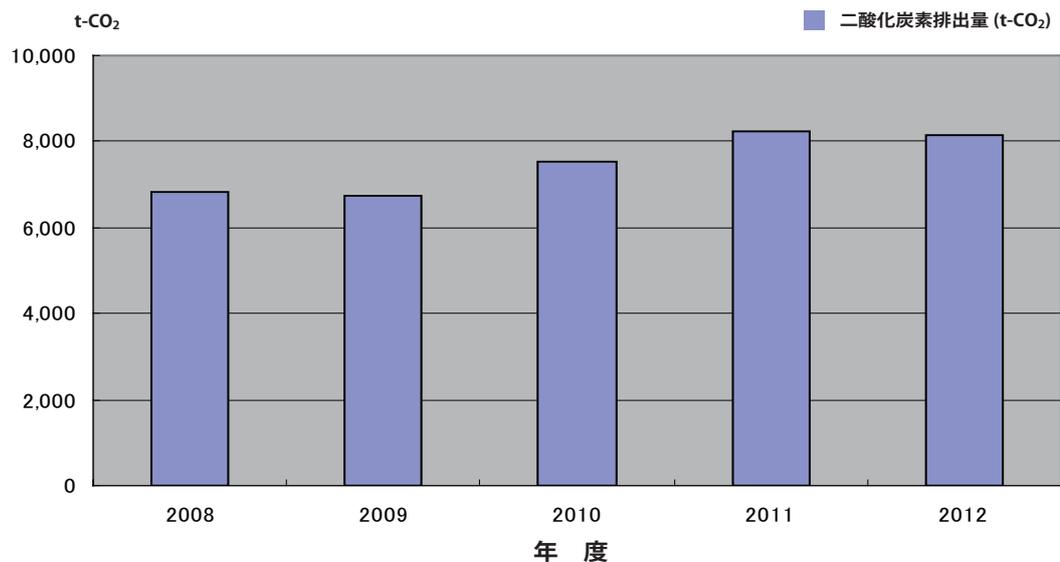


## 【二酸化炭素排出量削減への取組】

2012年度のCO<sub>2</sub>排出量は、生産量と比例し、前年度比0.7%減の8157t-CO<sub>2</sub>でした。原単位（生産量当たり）は、前年度比0.5%の微増で僅かながら生産効率の低下が見られました。また、環境中期計画の「2012年度までに2006年度（8418t-CO<sub>2</sub>）比3%削減」に対しては、2012年度が減少に転じたことで、2006年度比で3.1%の減少となり、辛うじて目標を達成することが出来ました。

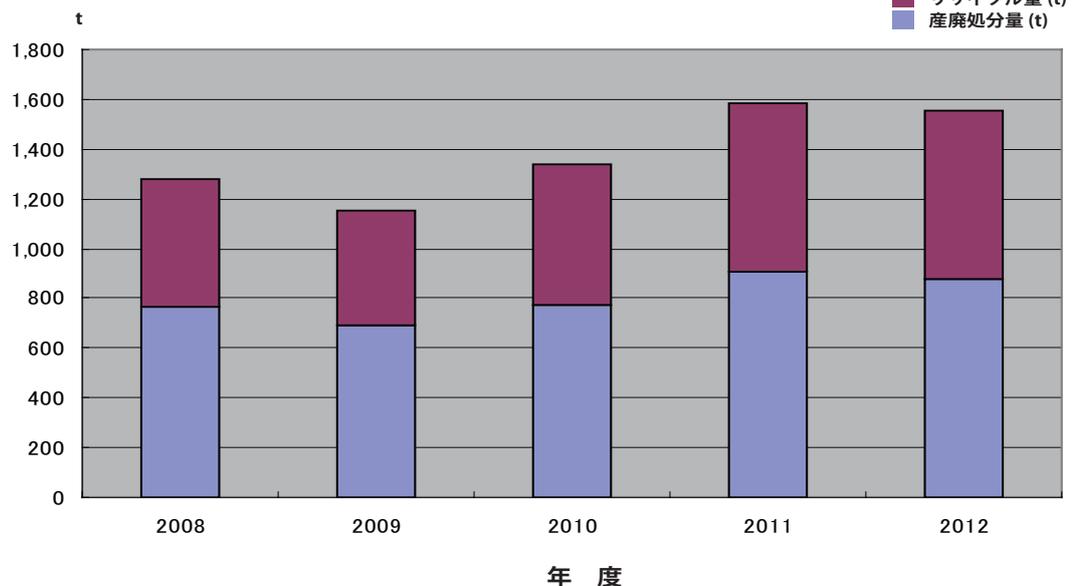
2011年度以降は、原単位排出量の削減に基軸を移しておりますが、第三次中期計画で策定した、「原単位排出量について2017年度までに2012年度比3%削減」の目標達成に向け、更なる生産効率向上と省エネ活動の推進に取り組んで参ります。

### 二酸化炭素排出量



## 【産業廃棄物削減への取組】

### 産業廃棄物量



2012年度の産廃処分量は、前年比4%減の874tでした。但し、原単位処分量は、前年比2.9%減の44.2kg/千m<sup>2</sup>に留まり、環境中期計画の「2012年度までに2006年度（45kg/千m<sup>2</sup>）比5%削減」に対しては、1.8%減少で目標達成とはなりませんでした。

尚、リサイクル率についてはここ数年40%台（2012年度は44%）で安定しています。

## 【P F O Aに関する取り組み】

弊社は、フッ素樹脂メーカーの取り組み<sup>※</sup>に呼応して、P F O Aリスクの無い資材への切り替えを進め、2012年度中に設計の見直しが完了しました。P F O Aリスクが懸念される在庫資材は、2013年度中に消費し、全廃を目指します。

※ フッ素樹脂メーカーは、以下の理由により、P F O Aの製造・使用・販売ならびにC8テロマー（ペルフルオロアルキル基の構造を有する化合物）を原料とする撥水・撥油剤製品の製造・販売を全面的に取りやめました。

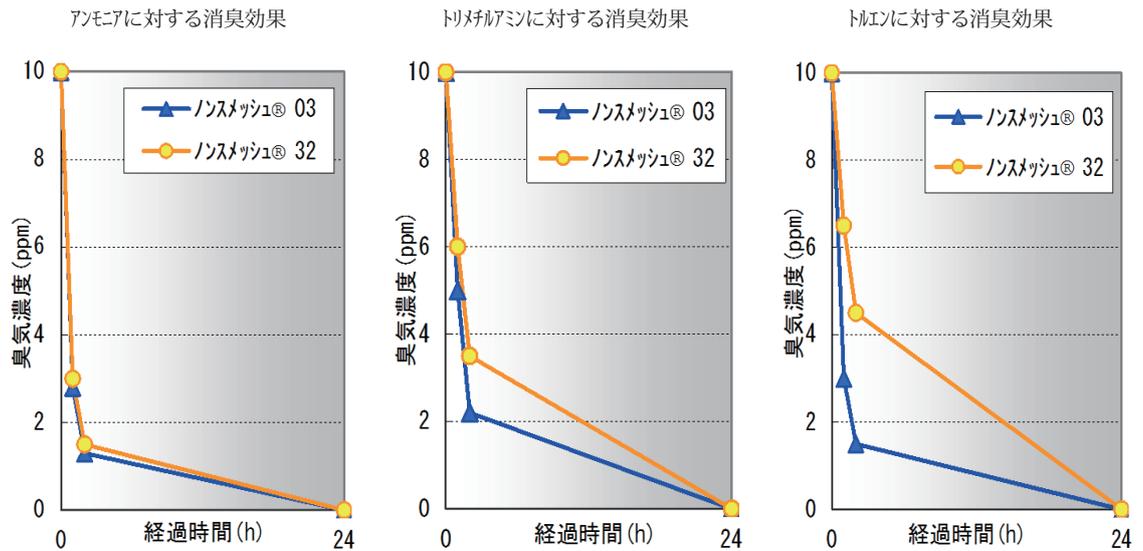
- ① P F O A（ペルフルオロオクタン酸およびその塩類）が化審法の第二種監視物質に指定されたこと
- ② P O P S条約（ストックホルム条約）の指定対象物質になったこと
- ③ P F O Aの一部の物質が化審法の第一種監視化学物質に指定されたこと

## 9. 環境保全をベースに生まれた新製品

【ノスメッシュ® 03、ノスメッシュ® 32】

★様々な悪臭に対して消臭効果あり!

アンモニア、トリメチルアミン、トルエンなど酸性臭や塩基性臭など幅広い悪臭に対して高い消臭効果があるため、様々な場所の消臭に使用できます。



★ノスメッシュ®の実用例



【簡易トイレ】



【喫煙ブース】

★抗菌効果あり!

ノスマッシュ® は、抗菌効果を有しているため、表面での雑菌の繁殖を防止します。

本報告書の全部又は一部の無断転載転用を固くお断りします。

JSTIIF

CK-63199-2  
(完)

試験証明書

依頼者 平岡織染 株式会社 殿  
品名 ネット 2点  
試験項目 抗菌性

平成18年11月15日付で当所に提出された試料の試験結果は下記のとおりであることを証明します。

平成18年11月20日

〒550-0002 大阪市西区江戸堀2丁目5番19号  
財団法人 日本化学繊維検査協会  
生物試験センター  
TEL:06-6441-0399 FAX:06-6441-6803

記

試験結果

No.	試料*	生菌数	静菌活性値	殺菌活性値
①	ノスマッシュ (原品)	<600	>4.1	>1.5
	綿標準白布 (接種直後)	2.0×10 <sup>4</sup>	—	—
	綿標準白布 (18時間後)	7.9×10 <sup>6</sup>	—	—

注\* 界面活性剤(Tween80)を添加した試験菌懸濁液を使用した。

試験方法: JIS L 1902<sup>2002</sup>、菌液吸収法

供試菌: 黄色ぶどう球菌・*Staphylococcus aureus* ATCC 6538P

試料

①

②

KAKEN JSTIIF KAKEN JSTIIF KAKEN JSTIIF

以上

本報告書に記載の試験結果は供試々料に対するものであり、荷口(ロット)全体の品質を報告するものではありません。事業所朱印のない報告書については、当会は一切責任を負いかねますので、念のため申し添えます。



(財)日本化学繊維検査協会にて菌液吸収法にて測定